

2024年3月28日

FANPS (Finance Alliance for Nature Positive Solutions)

電機・電子4団体主催セミナー「ネイチャーポジティブと電機・電子業界 ～関係性の可視化からアクションへ～」にて登壇

三井住友フィナンシャルグループ、MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス、日本政策投資銀行、農林中央金庫の金融機関4社によるアライアンスであるFANPSは2025年2月20日、電機・電子4団体が主催するセミナー「ネイチャーポジティブと電機・電子業界 ～関係性の可視化からアクションへ～」にて講演を行いました。

本セミナーでは、電機・電子4団体 環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ（以下、生物多様性WG）にて公開された「電機・電子の事業活動と生物多様性の関係性マップ Ver.3.0」の概要と活用方法、電機・電子セクターのTNFD対応におけるケーススタディが紹介されました。

「関係性マップ」は、生物多様性WGが電機・電子業界の事業と生物多様性との関係性を整理し2013年に初版を公開したもので、2024年度には、FANPSメンバーであるMS&AD インターリスク総研株式会社によるサポートのもと、TNFDⁱⁱにおけるLEAPアプローチⁱⁱⁱ等での活用を想定し改版しました。このサポートは、FANPSが提供する「簡易診断」、「セミナー」等のTNFD対応支援サービスのご案内をきっかけに、生物多様性WGからお声かけいただき実現しました。2023年度末に電機・電子4団体向けに開催したTNFD勉強会に続くご支援となります。

関係性マップは、電機・電子業界におけるマテリアルな自然関連の依存・インパクト、リスク・機会を整理しており、LEAPアプローチにおける「スコーピング」、「Evaluate (E1、E2)」、「Assess (A1)」を補助するツールとなっています。企業の皆さまは本マップを用いて自然との関係の概観を掴むことができ、要注意地域の特定、依存・インパクトの分析、リスク・機会の評価、指標と目標設定などの後続のプロセスに繋げることができます。

本セミナーにてFANPSは、「ネイチャーポジティブを我々の成長につなげるために ～金融機関の視点から～」と題し、ネイチャーポジティブの達成に向けた取り組みを、事業会社と金融機関双方の成長や企業価値向上にどのように繋げていくべきかについて、金融機関から見た視点でお話ししました。

セミナー後には、関係性マップの内容を踏まえ、ネイチャーポジティブに向けた今後の活

動の方向性について生物多様性 WG の皆さまと議論を行いました。事業と自然との関係性の把握とそれを踏まえたネイチャーポジティブへの取り組みは一企業だけで対応するのは難しいものです。そのため、このような業界全体による協働の取り組みは非常に有効であると感じました。

FANPS では今後も、業界や複数の企業が連携したネイチャーポジティブ転換を支援するなど、実効的な取り組みをサポートするとともに、具体的な課題解決に向けた対話を続けてまいります。



-
- i 電機・電子 4 団体：一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMA）、一般社団法人日本電機工業会（JEMA）
 - ii TNFD：Taskforce on Nature-related Financial Disclosures（自然関連財務情報開示タスクフォース）
 - iii LEAP アプローチ：「Locate, Evaluate, Assess, Prepare」の頭文字を取ったもので、TNFD が提唱する、企業や金融機関が自然関連の依存・影響関係、リスク、機会などを評価するための統合的なアプローチ